

●京都府地域力再生プロジェクト事業交付金申請 25 日提出

平成 29 年度の交付金申請のねらいは、木津川はどんな川なのかを沿川の皆さんに理解を深めるための展示説明会の開催地を宇治市から笠置町まで 7 自治体を対象に考えています。また一昨年の竹蛇籠の設置によって生き物の生息が見られます。

その成果と技術と経験を生かして伝統技術とされている大聖牛(水制工)の設置を行う予定です。15.2 kmに設置した前の竹蛇籠では最大 8mを目標に 2 日間で 12 本製作しました。今回は 1 基に 18 本が必要です。かなり技術力を向上させないと大聖牛が完成しませんので、心して取り組まねばなりません。そしてカスミサンショウウオの生息池に隣接する急斜面の巨大なナラ枯れ木の撤去伐採を行って生育調査場所の安全性の確保を行います。そして里山の会が編集した「木津川読本」と京都府山城教育局発行の「山城の歴史」を合体させて木津川に加えてやましろ地域を広く理解していただく解説冊子を編集して、イベントや展示会などでの活用と普及を計画しました。6 月に入るといよいよヒアリングがあって、山城地域の自治体代表者によって審査がなされます。

●木津川希少植物生育地地図完成

里山の会が結成から 20 年間木津川での生育植物を観察調査を行って来ました。そのうちレッドデータブックで絶滅寸前種を中心にして生育地の保安全管理に努めてきました。その生育地約 100 か所を明示した地図が完成しました。またデジタル化にも取り組む準備も整いました。この資料を基に木津川の希少植物の維持管理に相当威力を発揮するものです。里山の会が 20 年間にわたって約 24 kmの両岸を歩き続け足で確認してきた希少植物の位置が明示されているので、誰でも訪ねることができます。まさにこの資料は里山の会で最大最高の成果物であり、想像を超える時間と人数と植物相を判断する力量が詰め込まれた偉大な資料です。植物標本とその写真集、そして木津川生育植物写真集との 3 点セットは古今東西他に類を見ない資料が完成したことになります。従って心無い方々による盗掘などが、いとも簡単になります。成果とともに両刃の効果も考えなければなりません、まさに絶滅危惧種に追い打ちをかけることになりかねません。これまで部分的に公開してきましたが非常に大きな保存活動の課題です。環境庁の資料によると、絶滅への要因に、開発による生育地の減少、気候など環境の変化、に加えてひとによる持ち去りが指摘されています。今回の資料の完成は素晴らしいものですが、取り扱いについて注意しなければなりません。私たちは苦勞して積み上げてきた資料を公開して木津川への理解を深めていただくことを願っていますが、一方ではそれができない大きな矛盾に悩んでいます。

●京都府こどもの水辺(予定 8 月 19 日)の会場の下見実施

これまで近畿子どもの水辺として開催されてきました。小学生を中心にした水辺での取組み発表を通じて、交流を図ることを目的に開催されてきましたが、河川財団の助成金が受けられなくなって、中止となりました。それで各府県で規模を縮小して可能な範囲で開催をする発展的解消となり、この目的を引き継いで京都府では里山の会が中心となって、淀川の三川合流地に完成した「さくらであい館」での開催を計画しています。第 1 回目の今年は河川レンジャー主催で実施し、京都府の地域力再生の交付金を財源にしたいと考えています。川ガキ育成に関心をお持ちの皆様の絶大なご協力をお願いいたします。8 月盆明けの夏休み最終版の取組みとして成功させてください。里山の会の総力を挙げて取組みを勧めます。

●親子で遊ぼう学ぼう魚とりのちらし完成

多くのおじいさんやおばあさんは、子供のころの木津川の水泳場で、流れる木津川の水に接して、本当に気持ちのいい場所でしたと言われます。電車を降りて、広くて暑い砂浜を歩いて水辺に到達するとサラサラ流れる水と足裏に感じる小石や砂の感触が心地よいものでした。本当にやってきたという到達気分になりました。夏休み中、入場無料で遊べる素晴らしい楽園でした。その時代から 50 年は過ぎました。子どもたちにそんな気分を味わってほしいと思っています。そして木津川で魚とりが加わった瞬間

を味わってほしいと毎年企画実行しています。水泳場が無くなって 50 年以上たっていますが、木津川は変わりなく流れています。今年も通算 7 回の開催を予定していますので、スタッフの皆様には何かとご負担をお願いいたしますが、未来に生きる子どもたちにいい体験をプレゼントしましょう。ご協力をお願いします。9 時 30 分から 12 時 30 分を予定しています。

この取り組みで最大の課題は、水難防止と熱中症予防です。同時に万一に備えた生命保険も必要です。ライフジャケットの着用とテントの設営と撤収の作業です。この分野を国交省淀川河川事務所に応援を求めています。実現すれば、これまでの重労働がかなり軽減されることになります。

●府営団地での朝市に久しぶりに出店

キヌサヤなど豆が 5 分間で完売 農園へ豆のもぎ取りに案内 4 月と 5 月の朝市には、ほとんど出店できませんでしたが、5 月の最終回に吉村、大村、森島君が出店しました。目玉商品は農園から取り立ての玉ねぎとエンド豆でした。お集まりになっている皆様には、キヌサヤやエンド豆の薄緑の生き生きした新鮮な品物に驚きの声上がり、たちまち完売となりました。手にすることができなかったお人に自ら採取いただけるなら里山農園にお越しくださいと声をかけると、お二人が即答されました。8 時 40 分に閉めて、ご案内しました。大喜びで袋一杯の収穫をされました。今日の取組みから里山農園にお招きしてもぎ取り農園として、運営するのも新しい方法だと気づかされました。出来れば送迎バスの運行も取入れれば楽しいのではないのでしょうか。

●玉ねぎ収穫祭 収穫物即日完売

年末に 500 本の植付けを行いました。これまでは収穫すると束ねて小屋につるして少しずつ 100 円コーナーで売りさばいてきました。運び出しなど手間がかかりました。今年は収穫祭を行って持ち帰りをお願いすることになりました。すると収穫したすべてが即完売となりました。これで栽培畑が空いて次の作物の植付けが考えられ、有効利用が可能になります。また小屋へ運びこむ作業、保存するつるす作業も省けました。随分と作業量の軽減化が進みました。今後もぎ取り方式を取り入れた収穫日を設けて即現地販売方式を取り入れるとかなりの労力軽減となることを学びました。事務局会議でかなり論議を行いましたが、随分と効果が上がったと実感しました。大変多くのことを学ばされた作業日でした。

●木津川清掃作業 中西カヨさん初事業が成功

28 日 10 時には終了 様子が京都新聞に写真入りで掲載された。この日の一斉清掃での里山の会の受け持ちでは、それほど多くのごみは見つかりませんでした。河川を利用される方々の持ち帰りマナーがかなり向上しているのかと思うほど少量でした。うれしい結果になる傾向だといいいのですが、時間に遅れて参加された皆さんには空振りになりました。ご参加いただきました皆様ご苦勞様

●読売新聞 竹蛇籠生きもの調査を報道 記事掲載 28 日朝刊 全府下版

●6 月 3 日大学生と一緒に水田の生き物観察会 10 時から 12 時

6 月の生き物の季節です。田植えの終わった田んぼには、にぎやかに生き物の世界が繰り広げられています。昨年は蝮の生け捕りなどがありました。今年はどのような出会いがあるのでしょうか期待が膨らみます。

●里山音楽会と蛍の夕べ 10 日

茶摘みと田植えが終わって、少しほっとする頃、初夏を迎える束の間がほたるの季節になります。里山の会も忙中閑ありということで、暑い夏を乗り越えようと楽しい時間を作りました。ササユリは少し遅れて咲いてくれるのではないのでしょうか。京田辺市で自然のど真ん中でのひと時に多くの皆さんにお誘いいただきご参加ください。参加費お一人 500 円(小人無料)とさせていただきます。